

Q₁ キャリア教育との関係をどのように考えたらよいですか。

A₁ 「キャリア教育」は、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と定義され、端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」とも言われています（※「自分に気づき、未来を築くキャリア教育」文部科学省 H21.3）。

「志教育」は「キャリア教育」の内容を前提としつつも、社会的存在としての人間の生き方の観点を重視し、社会の中で自分ができることや果たすべき役割は何か、そしてその実現のためにどのような取組が必要かなどについてより深く考えさせるものです。「志教育」を展開することにより、児童生徒が確かな意欲をもって物事に取り組む結果として、知・徳・体のバランスの取れた成長につながるものと考えます。

Q₂ 「志教育」を進める上で大切なことはどのようなことでしょうか。

A₂ 「志教育」の推進にあたっては、これまで各学校で取り組まれていることを確認した上で、それら一つ一つを「志教育」の『かかわる』『もとめる』『はたす』の3つの視点から見直し、年間を見通した横のつながりや小・中・高等学校の発達段階に応じた縦の系統を踏まえ、計画的・意図的に推進することが大切です。

Q₃ 特別支援教育では「志教育」をどのように行ったらよいのですか。

A₃ 特別支援教育では、一人一人の実態に応じて、自分の将来について考える機会を設けたり自己の生き方を考える取組が行われています。また、自立活動の時間では、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、社会参加に係る資質を養うこととしています。特別支援教育においても、各学校の取組を「志教育」の視点で見直すことによって、一人一人の実態に応じた「志教育」を展開することができると思います。

各学校の今後の取組

H22

- 各学校における取組の「志教育」の視点での見直し
- 「志教育」全体計画の作成
- 「志教育」担当教諭等の位置付け

H23～

- 自校の「志教育」の在り方と意義に係る認識の深化
- 「志教育」年間指導計画の作成
- 「志教育」に係る事例発表会での情報交換と実践例の累積
- 家庭・地域への啓発と連携した取組の展開
- 「みやぎの先人資料集」(仮称)の活用

「志教育」プラン策定委員

座長

松尾 隆治
(宮城教育大学教職大学院准教授)

澁谷 秀昭
(大崎市立古川中学校校長)

村岡いく子
(大崎市立長岡小学校教頭)

茂木 悟
(宮城県角田高等学校教諭)

菅原 敏元
(宮城県社会教育委員連絡協議会会長)

横山 英子
(横山芳夫建築設計監理事務所代表取締役社長)

鈴木とくえ
(宮城県PTA連合会常任理事)

庄司 和弘
(キャリアカウンセラー)

(敬称略)

宮城県教育委員会

宮城県仙台市青葉区本町3-8-1 TEL.022-211-3646

E-mail : gikyout@pref.miyagi.jp



この印刷物は再生紙を使用しています。

夢をはぐくみ志

みやぎ

に高める

の

こころざし
志教育

プラン

平成22年11月

宮城県教育委員会

みやぎの志教育

「志教育」3つの視点

(宮城県教育振興基本計画から)

- 様々な人とのかかわりを通して、自己理解や他者理解を深化させる。
- 集団や組織の中で、よりよい人間関係を築く力や社会性を養う。

- 学校で学ぶ知識と、社会や職業との関連を実感させる。
- 社会において役割を果たす人間として、自らの在り方生き方について主体的に探求させる。

- 集団や組織の中で、自分の果たすべき役割を認識させる。
- 自己の役割を果たすことによって自己有用感を高める。

人と「かかわる」

よりよい生き方を「もとめる」

社会での役割を「はたす」

みやぎの志教育とは

小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会とかがわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく教育です。

みやぎの子どもたち

—現状と課題—

- みやぎの子どもたちは、人の役に立つ人間になりたい、卒業まで進路希望を達成したいと思っています。
- 将来の夢や目標をもっていますが、自分に自信がもてず、難しいことでも失敗を恐れず挑戦することに消極的な様子が見受けられます。
- 小・中・高校生とも学ぶ意義や学習目的を十分に理解していない傾向にあります。
- ◆ 高卒就職者の離職率は高い現状にあります。

資料

〈資料1〉小・中学生の自己像

項目	小6	中3
将来の夢や目標をもっている	70.0%	44.5%
人の役に立つ人間になりたいと思う	66.0%	62.8%
自分にはよいところがある	30.5%	20.7%
難しいことでも失敗を恐れず挑戦する	23.0%	14.5%
授業で学習したことは		
社会で役に立つ	国語 54.3%	41.7%
	算数・数学 65.3%	35.0%

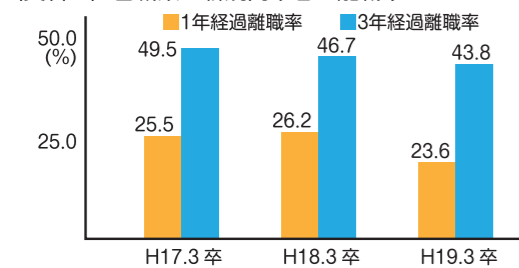
(文部科学省「平成22年度全国学力・学習状況調査」本県結果)
※4つの選択肢のうち「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

〈資料2〉高校生の学習や進路に係る意識

項目	高2
(学習目的)特に何も考えていない	21.0%
(進路)卒業まで絶対希望を達成したい	59.0%

(県教育委員会「平成21年度みやぎ学力状況調査」)

〈資料3〉宮城県の新規高卒者の離職率



(厚生労働省「平成22年度新規学校卒業就職者の就職離職状況調査」)

小・中・高等学校を通じ、各発達段階に応じた「志教育」

社会人としてよりよく生きる

「かかわる」

「もとめる」

「はたす」

自己を社会に位置づける

高等学校

中学校

家庭

地域

夢

小学校



【インターンシップ】
実際の職場の中に入り、自己の適性を生かす進路を考える。



【毎日の授業】
学習と将来の職業とのかかわりを理解し、進んで学習に取り組む。



【農林漁業体験】
体験活動を通して職業について考え、よりよい生き方を求める。



【家庭での手伝い】
家庭や身近な集団で自己の役割を果たす。

志



【キャリアセミナー】
仕事の内容を理解し、社会で果たす役割について考える。



【学び合い】
人と人のつながりの大切さを理解し、学び合う。



【道徳の時間】
自己の役割や責任について考える。



【地域の方との交流】
進んであいさつをし、地域の方々とかかわる。

提言 (「志教育」プラン策定委員会)

—夢をはぐくみ志に高めるために取り組んで欲しいこと—

学校では

- ◆ 学習や体験活動の成果を将来の夢や目標につなげていく力を付ける。
- ◆ 興味をもったことを追求する力や、基本的なことを習得するまで努力する力を付ける。
- ◆ 豊かな人間関係を築かせるため、コミュニケーション力を付ける。
- ◆ 小・中・高等学校の取組のつながりを大切にする。

家庭や地域では

- ◆ 規範意識など、人としての基本をしっかりと育てる。
- ◆ 子どもの話をじっくりと聞き、話をする時間を大切にして夢や目標をともに考える。
- ◆ 家庭や地域の中で、子どもに役割をもたせ、だれかの役に立つ喜びを体験させる。

県民が願う

子どもたちの将来像

- ① 社会のルールを守り、正義や責任などの気持ちをしっかりとつ人
- ② よりよい人間関係をつくるコミュニケーション力があり、協力して行動できる人
- ③ 自分で考え行動するなど、自立心をもつ人
- ④ 苦しさ、つらさなどに耐える力を持ち、ねばり強くものごとにあたれる人
- ⑤ 未来のことや新しいことを考える力があり、社会をよりよくしようとする人

(H22.3策定「宮城県教育振興基本計画」中の資料「教育に関する県民意識調査」(H20.9)から)



小・中・高等学校における 「志教育」ではぐくみたい姿

視点

小学校

- 家族や友達等身近な人々と接しながら、あいさつや返事をし、自分の気持ちを伝えることができる。
- 友達と協力する中で、互いのよさを認め合ったり励まし合ったりすることができる。
- 様々な集団の中で自己を生かすことができる。

中学校

- 自分のよさや適性を自覚するとともに、他者を理解し、尊重することができる。
- 人間関係の大切さを理解し、周囲に配慮しながら、よりよい関係を築くことができる。

高等学校

- 他者の価値観や個性を理解するとともに、自己理解を深めることができる。
- 様々な人と、場に応じた適切なコミュニケーションを図ることができる。

人と『かかわる』

よりよい生き方を『もとめる』

社会での役割を『はたす』

- 自分の好きなことや興味をもったことに進んで取り組む。
- 将来の夢や希望をもち、学習や体験活動に取り組む。
- 夢や目標をもち、将来の生活や仕事について、学習や体験活動を通して考える。
- 家庭での手伝いや学級の係活動・清掃活動等に関心をもって取り組む。
- 係活動の必要性がわかり自分の仕事に積極的に取り組む。
- 自己の役割や責任を果たすことで、人のために役立つ喜びを体験する。

- 目標や計画を立てたり、成果を自己評価する等、主体的な学び方を身に付ける。
- 将来の職業と学習との関わりを理解し、学習や体験活動に取り組む。

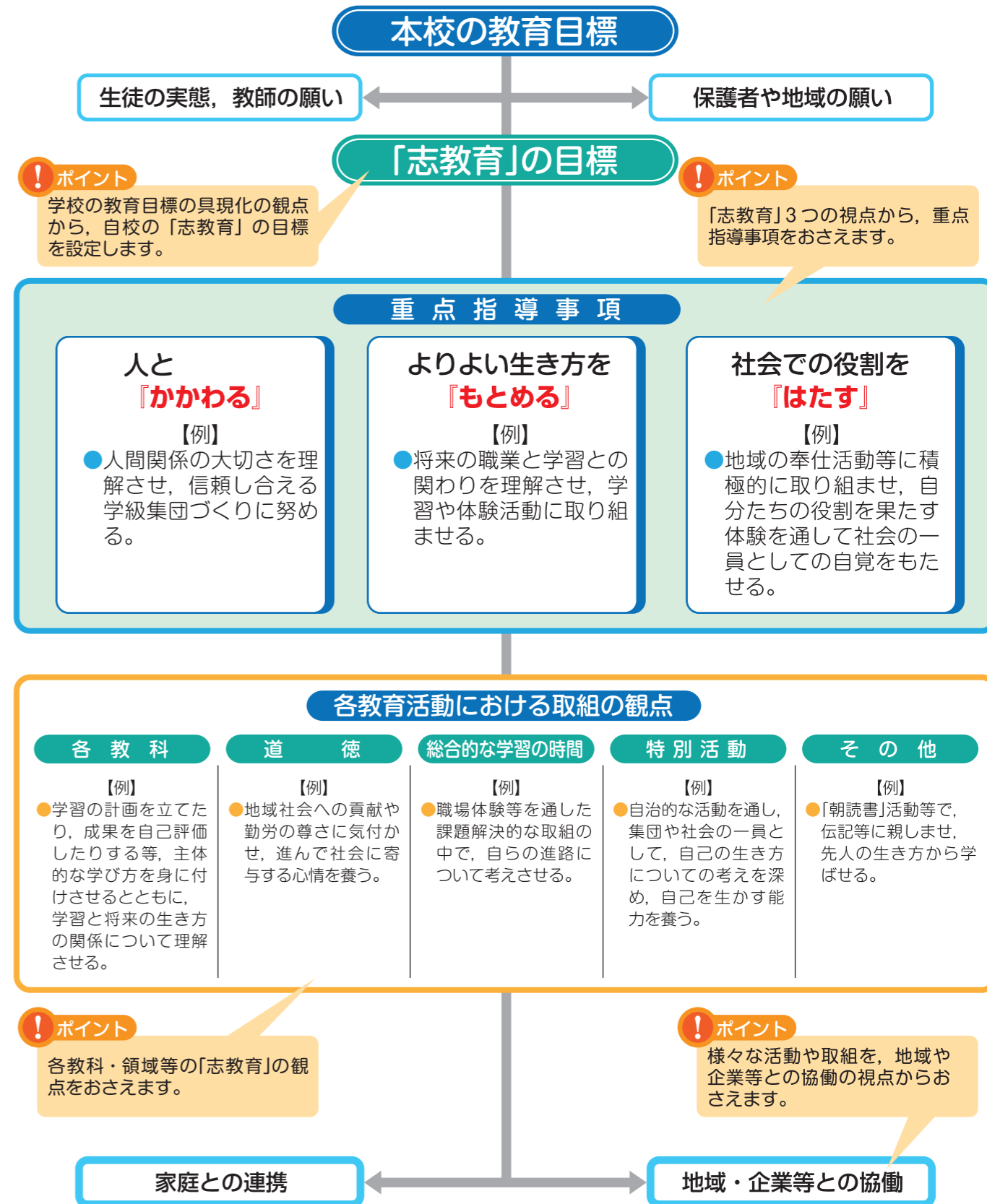
- 生きがい、やりがいがあり、自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。
- 将来の職業や生き方について考え、その具体化に向けて、学習や体験活動に全力で取り組む。

- 集団や社会の一員としての役割と責任を自覚することができる。
- 学校生活や地域の中で自己の役割や責任を果たすことで、自信をもつことができる。

- 学校や社会において自分の果たすべき役割を自覚し、責任を果たすことができる。
- 社会の中でより価値の高い生き方、自己を生かす生き方について考えを深める。

学校では

全体計画の作成(中学校の例)



学校では 指導計画の作成(中学校の例)

自校の取組を「志教育」の視点で見直しましょう。

別冊の参考指導事例集も活用しましょう。

(第3学年)

学期	各教科										道徳・総合的な学習の時間・特別活動			その他の活動	
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語	道徳	総合的な学習の時間	特別活動			
1	『永久欠番』 (中島みゆき) ●優れた詩を読み、作者の生き方への思いを読み取り発表し合う。 【もとめる】 【はたす】	『ポイント』 ●全ての学期 全ての教科 にあるとは 限りません。			『曲にふさわしい表現で追求しよう』 ●歌詞の内容や曲想を考え、曲にふさわしい表現を追求する。		『武道』 ●日本文化としての礼儀作法を学びながら得意技を身に付けたり、お互いに相手を尊重する態度を身に付ける。					『先人の努力』 (役割と責任) ●地域に貢献するために一切の私利私欲を捨てて生き抜き、現在も地域社会の人々から敬愛されている鎌田三之助の業績と人としての在り方生き方について考える。 【はたす】	『最高学年とは』 ●全校のリーダーとして生徒会や行事に取り組む上での役割や望ましい態度について話し合う。 【かかわる】 【はたす】 『校内合唱コンクール』 ●学級が心を一つにして目標に向かい協力して取り組む。 ●「生き方」や「希望」等に係る歌詞の意味を考え、自己の生き方を支える一助とするような思いをもって表現する。 【かかわる】 【もとめる】	『朝の会』 ●スピーチの中で「故事成語」等を取り上げるなど、生き方にかかわる知恵に触れる。 『朝読書』 ●「先人に学ぶ週間」を設ける等の工夫により、伝記等、読書の幅を広げる機会を作る。 『あいさつ運動』 ●よりよい集団づくりができる学校風土を醸成する。	
2	『聞き上手になろう』 ●進路選択をテーマに招いた地域の方や先輩たちに、自分の考えを伝えながら、よき助言を得る等の学習に取り組む。 【もとめる】	『わたしたちと社会生活』 ●人間は「社会的存在」として生まれ、生涯にわたり義務と責任をもって生きること、また人権が尊重され、共に生きる社会の一員としての役割を果たすことの必要性を学ぶ。 【もとめる】 【はたす】										『20th Century Greats』 ●マザーテレサ、手塚治虫、ジョン・レノン、レイチェルカーソン等、20世紀に偉大な功績を残した先人について調べ、英文のレポートをまとめる。 【もとめる】 【はたす】	『よりよい社会の実現』 (勤労の尊さ)(奉仕) ●勤労の尊さを理解するとともに、社会とかがわることの大切さに気付き、進んで社会に寄与する心情を養う。 【もとめる】 【はたす】	『わたしの生き方』 ●職場体験、高校の体験入学会に参加し、調べたりまとめたりする取組を通して、将来の進路計画の発表会を行う。 【もとめる】 『この人に学ぶ』 ●市内の起業家や、社会で活躍する先輩へのインタビュー等を通じ、仕事への取り組み方や生きる上で最も大切にしていることに触れ、学び取ったことを自分なりにまとめる。 【もとめる】 【はたす】	『地域活動』 ●ボランティア活動等、地域に役立つ日常的な活動に取り組む。 『部活動』 ●自分なりの目標をもって取り組む。 
3	『時を超える手紙』 ●10年後の自分を想像し、理想の実現を目指して生きていく決意や将来への期待を、自分に向けた表現で手紙に書く。 【はたす】 【もとめる】	『地球市民をめざして』 ●世界が直面する、人口、食料、平和、資源、環境問題について考え、その原因を理解するとともに、将来自分が果たすべき役割を考える。 【もとめる】 【はたす】										『The Fall of Freddie the Leaf』 ●小説の主題、"King people happy is a good reason for living." (人を喜ばせることが生きていく理由)を読み取る。 【はたす】	『感謝の気持ちを素直に』 (自他の尊重)(感謝) ●自分の中学生生活を支えてくれた仲間や先生、いろいろな方々の生き方を理解し、尊重できる心情を育てる。 ◆心のノートの活用 【かかわる】 【もとめる】	『卒業式』 ●自分の将来の在り方生き方への決意を新たにす。 ●中学校生活で見つけた自分のよさや共に多くのことを学び合った友達のよさを認め合う。 ●周囲の人々への感謝の気持ちをもち、その人々の思いに応える生き方について考える。 【かかわる】 【もとめる】 【はたす】	『ポイント』 『学級づくり』 何よりも大切なことは、教師が人としての在り方生き方を真剣に語り、そして子ども同士が自分の夢や志について話し合い、お互いの夢や志の実現を心から応援し合える学級集団をつくることです。

第3学年 道徳の時間

主題名／先人の努力
資料名／青年三之助
※みやぎの郷土資料(宮城県教育委員会)
※鎌田三之助年譜(鎌田記念ホール)

本時のねらい

- 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人への尊敬と感謝の念を深めるとともに、社会の一員として自己の生き方を考える。

【志教育の視点】

- 集団や社会の一員としての役割と責任を自覚させる。

学習の流れ

- 1 鎌田三之助の業績を知る。
 - 自分なりに、共鳴したことや感じたことを発表し合う。
 - ・大事業(品井沼干拓)の遂行について
 - ・農民救済のための数々の事業について
 - ・わらじ村長と敬愛されたことについて
- 2 鎌田三之助が貫いた生き方について考える。
 - 「青年三之助」を読み考える。
 - ・「八十八度の手塩にかけた百姓の命米」という言葉に込められた思いについて考える。
 - ・行動の基本に「郷土や農民のため」という社会貢献の考え方があることに気付く。
- 3 今の自分を振り返り、集団や社会の一員としての視点から、自己の生き方を考える。
 - 自分の考えを書く。

【ポイント】

- 鎌田三之助の業績や偉業を讃えるだけでなく、その行動の基本となっている生き方について考えさせることが重要です。
- 「志教育」実施に係る生徒の感想や自己評価等はファイリングするなど、振り返ることができるようになります。

夢をはぐくみ志に高める手だて

郷土のために身を捧げ、業績を残した先人の生き方に触れることにより、自己の生き方について振り返らせたり、考えさせたりする。

かかわる もとめる はたす

